

Kingdom of Thailand

(タイ王国)
旅行レポート



首都：バンコク (Bangkok)

期間：2019年6月13日(木)～ 6月16日(日)

航空会社 タイ国際空港

ホ テ ル ANANTARA RIVERSIDE・BANGKOK RESORT

催 行 勤務先会社／創立35周年記念研修旅行に参加

| | |
|---------|--|
| 6/13(木) | AM11:45 TG623便 大阪（関西国際空港）⇒ 15:35 バンコク／スワナブーム空港 (搭乗時間：約6時間) ⇒ バンコク空港から専用車でホテルへ。 夕食：シャングリラ／レストラン（中華料理） |
| 6/14(金) | 専用車にてバンコック市内観光 (王宮、エメラルド寺院、涅槃寺、暁の寺など) 夕食：イタリア料理 |
| 6/15(土) | 終日：自由行動 夕食：ホテル内 リバーサイドテラスにてインターナショナルビュッフェ |
| 6/16(日) | AM 8:25 TG672便 バンコク／スワナブーム空港 ⇒ 15:55 大阪（関空） |



ワット・アルン（暁の寺）



王 宮



年間を通して高温多湿。旅行中は平均気温32℃、雨季の直前だったのであろうか、天候には恵まれ傘の必要は無かった。ホテル、レストランではエアコンが良く効いている。但し外での行動には必需品の「扇子」の携行を忘れたため現地で調達した。行動すると半日で相当汗が出る。着替えはしっかり準備していたが、念のため毎日洗濯をして、心に余裕を持たせた。

買い物



- ・タイの通貨単位はバーツ (Baht=BTHB)。
レートの目安: 1バーツ=約3.5円
- ・靴、半袖襟付きシャツを購入したが、日本に比較して半値のイメージであった。
- ・クレジットカードはJCBカードが受け入れてくれるか危惧していたが、多くの店で問題なく使用できた。
- ・街中では「スターバックス/コーヒーショップ」もあり安心して利用した。



チップ



タイ国にはチップの習慣があると聞いていたので、常に念頭に置いて行動した。

例: ホテル/ルームキーパー、ポーター: 約20バーツ(70円)。

タイ式マッサージ店/約200バーツ。

常に20バーツ紙幣を数枚ポケットに入れて行動するように心がけた。

飲み水



タイの水道水は飲用不可と注意を受けていたのでお茶を数本持参したが、コンビニでは日本のペットボトル入り「お茶」が日本よりも安価で売られており、持参の必要は無かった。ホテル内でも1リットル入り飲用水が1日に2本まで提供されていたので、歯磨き時の使用も含めて十分であり、不便を感じることは無かった。

自由行動日の行動

「自由行動日」には自分の主旨としては、基本的に「単独行動」を旨としているので、その通り実行した。先ずは「概略地図」を片手に電車に乗って少し郊外に出ることを考えた。当てがあるわけでは無い。電車に乗るには切符を購入しなくてはならない。乗車区間もリクエストしないといけない。駅員さんとのコミュニケーションが介在する。それも片言英語とそれでもダメなときは筆談ということになる。

幸いにしてことごとく首尾よく運び、目的が達成できた。



目的の一つである市内にある大きな公園「Lumpini Park／（ルンビニー公園）」にも入園し、南国特有の多くの植物や今を盛りの綺麗なお花群を鑑賞した。

芝生広場では芝の深さが100mm近くあり、スニーカーが沈み込んで歩きにくかった。



この公園もそうであったが入口には国王陛下、妃殿下の大きな写真が綺麗なお花等で飾られ「モニュメント」風な建造物として鎮座している。市内の主だった場所やホテルの入口付近などにも大小は違えども、どんと設置されている。国民の王宮に対する敬愛の象徴と見た。また私達外人には「Welcome」の気持ちを象徴的に表してくれておられるのであろうと思う。

「ショッピング」「お昼ご飯」、疲れた時の休憩は日本でもおなじみの「スターバックスコーヒー店」を発見してタイミング良く利用した。

バンコク市内の鉄道は地下鉄（MRT）と高架鉄道（BTS）がある。BTSは楽しんで利用したが、時間不足でMRTは体験できなかった。残念に思っている。

因みにBTSはドイツ／シーメンス社のシステムであった。

高架鉄道（BTS）



国民性

数日の滞在で結論めいたことを述べるにはいささか遠慮が伴うが、
体験から感じたことを記すことにする。

- 伝統的に仏教国ということから敬虔な国民性と聞いていた。まさにそのように感じ取った。
- 宿泊ホテルは一流ホテルだったので、当然ながらそのスタッフは教養を有し、またホテルマンとしての高度な教育訓練を受けているであろうと思しきおもてなしの気持ちが随所に表れている。
- 鉄道の駅員さんもそうであった。乗車区間の料金、自動販売機で切符を購入する方法、果ては乗車ホームへの道順まで懇切丁寧に教えてくれた。
- 電車に乗ると、席に座っていた青年が素早く年輩の私に座席を譲ってくれた。日本でもたまに見かけるが、この国では一味の違いを感じるのである。それは素早いこと、行動が心からという気持ちがこちらに伝わってくるのである。
片言で会話が成り立つ。少しだけでも意志の疎通が成り立つ。降車駅が近づくと彼は携帯電話の画面に日本語で「お元気で、道中気を付けて！」と表示して画面を私の眼前に差し出した。そして今度は日本語で「さようなら！」と言ってくれた。
私は大阪流に「**毎度！サワディカ！**」と両手を揃えてタイ式お礼のあいさつを返した。
「毎度」が通じたかどうかは?であるが、要は気持ちの問題なので通じているものと思うことにしている。



宿泊したホテルの建屋を繋ぐ歩廊からの景観
ANANTARA RIVERSIDE・BANGKOK RESORT



ホテル内のプール

(国民性 続き)

- タイ式の挨拶「コップンカ／こんにちは」、「サワディカ／ありがとう」はいずれも両手を揃えてお祈り風に相手に挨拶を申し上げるときの作法と聞いている。短い瞬時の事であるが出会いと別れ、こんなさわやかで気持ちのいい感覚はタイ国ならではの経験と言える。



押し付けられた作法でもなく、生まれたときから備わっている、心からの作法であると理解した。相手の方は必ず瞬時にこの挨拶を返してくれる。

翻って日本国内で日頃散歩していて、向こうから見知らぬ人が歩いて来るとする。私は山歩きの時のように知らない人にでも軽く会釈して「こんにちは」と先に発声することにしているが、打てば響くように挨拶を返してもらうことは、さほど多くない。

タイで感じたことは、それは事務的に挨拶を返してくれるということではなく「心から敬意を持って」が込められている様に感じた。良い勉強になったと感謝している。

- 発展しつくしている日本に比べて、この国はまだまだ先進国に追いつけ、追い越せの気持ちがあると思う。日本人は少し鼻にかけて少し驕りがあるのではないか。日常の行動を見ていて常に感じていることであるが、異国に来て、ましてや、さわやかな“おもてなし”気持ちで大事にして頂くと、尚更その差を強く意識してしまうのである。「心から」の気持ちや、姿勢、行動を目の当たりに受けて、異国でそれを眺めて日本と比較した時に大きな違いを感じたものである。





車社会



- 日本製の車が圧倒的にひしめくように走り回っていた。トヨタ車が大半を占めていて、マツダ、ホンダと続く。ここまで日本車が多いとなんだか嬉しくなる。そして何よりも日本と同じ「左側通行」管制である。余計に親近感を覚えてしまう。同じ近隣のお国で韓国や中国はアメリカ、フランス、ドイツなどと同様「右側通行」体制である。
- 期間中ホテルから空港、ホテルから観光目的地への移動など専用バスでの送迎であったが、バンコク市内の交通渋滞は慢性的にひどい状態であった。発展途上では避けて通れない問題なのであろうか！
- タクシーは個人タクシーと営業タクシーが仲良く運営されている。大半がトヨタ車である。この町独特の「軽自動車風」のタクシーも多い。雨よけの屋根はあるが、脱落防止用の金属製手すりがあるだけで、風通しは良いものの、それゆえにエアコンなどは皆無である。そしてステレオ音響装置から派手な音楽を大音響でかき鳴らして走り回っている。交通渋滞に遭遇すると通勤利用者などは困ってしまう。そこでいずこでも同じであるが、「スーパーカブ」に代表される「小型2輪車」も日本同様利用者が多い。そして面白いのは、この2輪車のタクシーも大活躍をしている。利用者も多い様で繁盛している。ドライバーは黄色のベストを着て流している。数は多いと見た。そして利用者も多かった。多分利用料金は安いであろうし、裏道や狭い所でもスイスイと走るので、利用者が重宝しているとのことであった。



タイ文化にふれる

①ニューハーフショー

今やタイの名物ともなった美しい「ニューハーフ」による歌あり踊りあり笑いありの華麗なパフォーマンスが毎夜繰り広げられている。当初の印象では「フン！しようもない」という観念でしかなかったのであるが、「見ると聞くでは大違い」とはこのことでは無いか！休むまもなく次から次へと総勢50名ほどのスターによる質の高い絢爛豪華な群舞、あっという間に予定の90分が過ぎ去った。有料なので”プロ意識“を持って一生懸命、芸を演じ切るのは当然であると思うが、持てる体力と芸術力を力の限り演じてくれた。その気持ちが直に伝わって来た。感激した！の一言である。

ニューハーフは綺麗な人が多いのにはびっくりした。しかし化粧が上手で尚且つ衣装がきらびやかで、そのうえ舞台から少し離れているので、実際接近したらどんな感想になるか保証はない。

演目の中に日本を取り上げたと思えるショータイムがあり、「蝶々夫人」を連想させるよりもっとひどい、まるで夏の布団を着せたような着物衣装で、両手に大きな舞扇子を持ってコミカルなスターが登場した。これはこれで楽しく演じ、笑いを誘ってくれたが、少し冷静に想えば「少し小馬鹿にしている」という印象を受けた。日本人からするとこの感想は私一人ではないと思う。しかし遠く離れた海外の演出者の思いと純粹の日本人との“文化の違い”であろうと思うのでこれはこれで目くじら立てることなく、笑って楽しめば良いと思う。



①ニューハーフショー（続き）

■印象に残った演目 ■

「アリラン」韓国・朝鮮民謡／を歌いながらのショーで有ったが、幼い頃からどこからともなく、良く耳に入つて来てよく聞いていて頭の隅に鮮明に残っている。出だしの歌詞は“日本語?”と思えるような言葉なので尚更、耳目を引かれてしまう。

歌もすごく上手で情緒たっぷりに歌い上げている

（口パクがどうかはこの際問題では無い）。演者も日本式の時の一人と違つて多くの民族衣装の美人が沢山登場して、一段とムードを盛り上げて感傷的に引きこんで感動させる。本日の出し物の中では一番印象に残った。アリランの歌は私達東洋人に相通じるものがあるようだ。この演目を鑑賞できただけでもこのショウに来た価値は大いにあると認識している。



（参考）

- (1) 日本における宝塚歌劇、松竹（SKD）、日劇（ダンシングチーム）などを連想させる内容のショー。
- (2) 入場料約800バーツ（3000円）

②タイ式マッサージ

バンコクには多くのマッサージ店があると聞いている。こりをほぐしエネルギーの流れや呼吸を整えることが健康につながると考えられている。全身を丁寧にくまなく約90分かけて施術する「古式マッサージ」店は町のあちこちにあり、手軽に受けられる。私も年が年だけにあちこちが痛くて悲鳴を上げるのでは

ないかと思っていたが、少しは痛さを我慢したが、それほどでもなく無事終了。旅の疲れが取れた思いを有した。

施術者によっては手抜きではないけれど、力が入らずに終わってしまった。と不満をもらす同行の者もいたが、私は幸いにして100%満足した。



- (1) 料金約700バーツ（約2500円） チップ（約700円）

バンコクのイメージ

都市の大きさや街のイメージからすると、日本の2番目に大きい「大阪市」に似ていると感じた。人口もほぼ840万人前後と拮抗している。首都東京と違っておしゃれよりも、経済追求、商売一本槍という庶民の活発な意気（気風）を感じた。

繁華街は何でも揃っており、大阪の繁華街とその利便性においては何ら不便を託つことは無いと思った。

サワディカ、コップンカ の精神が日常的に根付いている敬虔でフレンドリーなお国の人々、およびこの催行を実施して下さった会社のオーナーさんに感謝しつつペンを置くことにする。

(2019年6月21日)

(参考文献)

- ・バンコク徹底ガイド／発行：(株)ラテラ・インターナショナル
- ・タイ国政府観光庁／観光ガイド

